

With

ウィズ

～私たちが私たちに楽しく暮らせる地域づくりを
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

音川（全市）・高井（中央）・金森（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・甲陽園）・高田（北部）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

生活支援コーディネーター かつどうトピックス

コープこうべさん&生活支援コーディネーター協働企画！ フードドライブ配布会&つどい場交流会開催

フードドライブとは、家庭で余っている食材を、必要としている方や福祉的な活動・団体へ寄付する仕組みです。今回はコープこうべさん主催でフードドライブを実施し、つどい場ネットワークの加盟団体や、コープでつどい場を実施している方等を対象に、食材の受渡しと交流会を行いました。

会場では、集まった食材を目の前に、活用方法についてたくさんのアイデアが浮かんできたようです。また交流スペースでは、普段つどい場をしている方がつどい場となり、お茶をのみながら活動について語り合い、お互いに知り合うきっかけにもなりました。

コープこうべさんと一緒に企画することで、家庭の剰余品を地域活動で活かすことができ、さらに交流を通して、つどい場同士のつながりを深める機会をつくることができました。



生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

フードドライブ×地域活動 ～身近な「地産地消」活動～

こんにちは！

生活支援コーディネーターの音川です。市内全域を担当し、他機関とのネットワーク推進や新たな活動の仕組みづくりを行っています。

紹介する「フードドライブ」は、「食品ロス」をなくす目的をもつ団体や個人も、生活困窮支援や“居場所づくり”の推進などの福祉要素のある活動に参画ができる新しい仕組みになります。

全市（第1層）生活支援コーディネーター
音川 礼子

上記のような「フードドライブ」の仕組みは、海外では1960年代から盛んに取り組んでいる国もありますが、日本では最近、スーパーや自治体など、様々な団体や機関等で取り組まれるようになってきました。

神戸にあるNPO法人フードバンク関西と連携した生活困窮支援に繋げる取り組み等と平行して、地域で集まった食材を地域の居場所づくりとして「つどい場」や「こども食堂」での活用にも広がってきています。

「フードドライブ×みんな食堂」

コープ武庫川店の集会室で子ども誰もが参加できる「みんな食堂」が始まりました。そこでは、調味料や飲み物等、フードドライブで持ち寄られたものを活用してボランティアが夕食を作っています。

家庭で使わなくなったミルク缶が、赤ちゃん連れのママへと渡される場面もあり、食品ロスだけでなく、“子育て”が“孤育て”にならないよう、また“孤食”を減らすような温かいつながりも見られています。

他にも西宮市内で少しずつ増えている「子ども食堂」では、スーパーの廃棄食材を活用している所や、お米などの寄付が寄せられることもあります。

食事をみんなで囲むことで、子どもから高齢者までの多世代や知らなかった人同士の距離が近づきます。

寄付した方の思いもせながら、地域の居場所は少しずつ増えています。



共 生 の ま ち づ く り 実 践

その⑥ 捨てられがちな物



カフェのレジ付近には子どもたちが作ったベルマーク入れ箱をおいています



みんなで作った切手作品
ふれぼの玄関でお出迎え

共生のまちづくりを実践する地域の常設拠点として、2016年に誕生した「地域共生館 ふれぼの」そこで生まれてくるエピソードをお届けします！

ふれぼのの活動では、家庭では簡単に捨てられがちな物を使って壁面を飾ったり、物作りなどの交流活動のグッズとして使うことがよくあります。

例えば、学校等の教育機関のみが商品に換えることができる「ベルマーク」も、みんなで集めて学校に寄付することで学校や子ども達とのつながりを持っています。

もちろん、牛乳パックやペットボトルをスーパー等に持ち込むことでプラスチック製品等にリサイクルされることも大切なエコ活動です。

どんな形でも、家庭で簡単に捨てられるものを地域に出してこることが、色々な活動に繋がっていきます。

古切手やペットボトルキャップなどは様々な団体に寄付することで、世界的な福祉にも役立ちます。みんなが集まる場に気軽に持ち寄ってもらうことでも、エコや交流に十分、活用できます。

あったかエピソード
「みんな、ボランティア」

地域活動センターふれぼので活動しているHさん、今は週5日間、通所していますが、約15年前の制度では週4日が通所日で、どうしても週1日、自宅で過ごすことを余儀なくされていました。

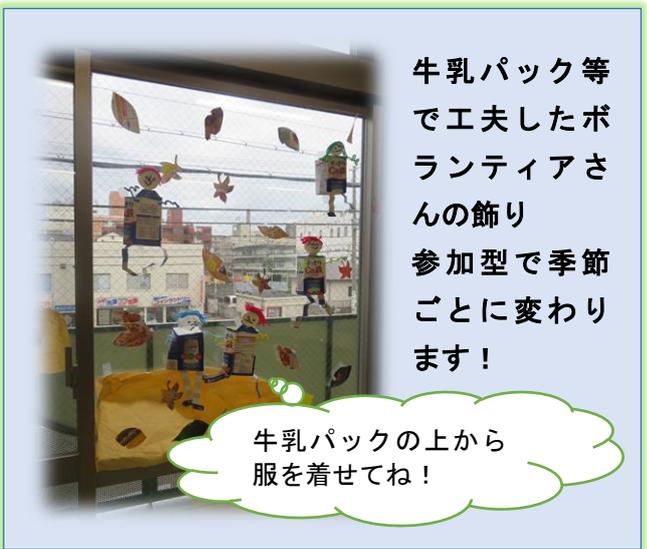
そのお休みの一日の過ごし方を考えていく中で、ボランティアさんと「使用済み切手の整理活動」を一緒に行なうことはどうか、という話になりました。

Hさんが外出する時に、自分の役割としてボランティアをしに行くということがやり甲斐になること、そして水を使うことが好きだったことで、切手を台紙からはずす活動がうまく合っていると考えたからです。

Hさん自身のボランティア活動を支えるボランティアさんを募集、その中には小さな子どもとお母さんの参加もあり、和気あいあいとした活動は数年間続きました。

昨年、Hさんは久しぶりにふれぼのにあった使用済み切手を使って、80代のカフェのお客さんと切手整理のボランティア活動を行ないました。

あの頃から10年以上たっていましたが、ベテランの手つきは健在でした！



牛乳パック等で工夫したボランティアさんの飾り
参加型で季節ごとに変わります！

牛乳パックの上から服を着せてね！



ペットボトルをみんなが使えるように花瓶にするよ！

「ペットボトルで何をつくってるの？」と周りから声をかけられることも多くなります！